

教育目標: ○進んで学ぶ子 ◎心を磨く子 ○健康に過ごす子 (わかば学級)○得意なことを頑張る、苦手なことにも挑戦する子 ○友達と仲良くする子 ○きまりを守る子 ○自分のことは自分でする子

目指す学校像: 毎日通うのが楽しい学校、当たり前ができる学校、見える学校・話の出来る学校

目指す児童・生徒像: 自らを高め、互いに支え合い、楽しく充実した学校生活を送ることのできる児童

目指す教師像: 指導力に優れた教師、児童、保護者、地域から信頼される教師、組織的な学校運営にすすんで参画できる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かな学びの定着	○基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、思考力・判断力・表現力を育成する。 ○主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、授業改善を推進する。	○「授業改善推進プラン」をもとにした授業改善を図り、基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。	週ごとの指導計画を作成し、指導と評価の一体化を図り、授業改善を推進する。	4	2	4	4	教員の自己評価は肯定的評価が77%であった。週ごとの指導計画を作成したが、毎時間の指導と評価の一体化は難しかった。	評価を意識した指導計画を立て、計画的に評価を行う。基礎基本の定着については、朝学習の徹底と内容の精選を行う。
			一人1台のタブレットやICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	3	2	4	3	教員の自己評価は、肯定的評価が約72%であった。タブレットを活用し、意欲的に課題に取り組む児童の姿は見られたが、「協働的な学び」は十分にできていなかった。	今年度に各学級で行った内容を「実践事例集」として取りまとめている。事例集をもとに「ポジショニング、共同編集、共有」などの協働学習のツールをどの学級でも実践できるようにする。
			国分寺学の創設に向け、地域人材や地域環境を活用した体験的な学習を再構築する。	1	1	4	4	教員の自己評価は肯定的評価が47%であった。地域の方をゲストに招いた授業を実施できた。再構築という点では不十分であった。また地域人材を積極的に探して活用する姿勢が足りなかった。	年間計画を整備し、実態や状況に合わせて内容を工夫する。国分寺学に関する知識を教員が共有できるよう、資料をデータ化して蓄積する。またどのような地域人材を活用したかを一覧にして閲覧できるようにする。
豊かな人間性の育成	○「全ての人々が大切にされる街宣言」の具現化に向け、児童の豊かな心の育成や望ましい人間関係を構築する力を育成する。	○人権教育や生活指導の一層の充実を図り、いじめを予防し、児童の規範意識を高める。 ○児童の豊かな感性を育み、道徳性の向上を図る。	組織的にいじめ問題に対応し、児童が主体的にいじめ防止に取り組む活動の充実を図る。	4	3	3	3	いじめアンケートで嫌な思いをしていると回答した児童は11%であった。アンケート調査を活用するなどし、組織的に早期発見・早期対応に努めた。児童によるいじめ防止の取り組みを充実させていくことが課題である。	安全指導朝会でいじめを話題にし、その内容をもとに児童が考えたり、話し合ったりできる取り組みを行う。児童会活動の取り組みとして、「あたたかい言葉かけ運動」や「いじめ防止のための俳句づくり」などの取り組みを継続する。
			・「考える道徳、議論する道徳」を推進する。 ・発達段階に応じて学級会活動を年に10回以上実施する。	4	2	3	3	保護者アンケートでは、「望ましい人間関係の育成」に関する肯定的評価は82%であった。児童が自分の考えをもち、すすんで話し合えるよう、教員は授業改善を進め、授業力を向上させる必要がある。	より多くの友達の意見を共有できるようICT機器を活用する。ICT活用は時短にもなり、議論する時間を十分にとることができる。「学級会の進め方」に関する資料を特別活動部が作成し教員が共有する。
開かれた学校づくり	○「見える学校・話のできる学校」となることで、家庭・地域と課題を共有しその解決を図る。	○あらゆるツールを活用し、学校の発信力を高め、保護者・地域との連携を深め、協働関係を築く。	・学級だよりを毎月1回発行する。 ・二小ブログを毎日更新する。	3	1	4	4	保護者アンケートでは、肯定的意見が93%であった。各種お便りやブログで学校の取り組みや児童の様子を発信した成果だと考える。	次年度は毎日ブログを更新できるよう、担当者が確実に更新できるような手立てを講じる。各学級が学級便りを確実に月に1回以上発行する。
			保護者・地域に学校を公開し、事後のアンケートを活用して教育活動の改善を図る。	4	2	2	2	保護者アンケートでは肯定的意見が74%であった。学校アンケートの回答を参考に教育活動の改善を図ってきた。改善内容を保護者へ丁寧に示していく必要がある。	学校アンケートの回答に対し、今後も改善策を提案し、教育活動の改善に積極的に生かしていく。